

サーチライト With Pastor Jon 創世記 12 章 パート 3 「神の法則 / 家庭」

1998.01.07

失敗した時のカギは、そこから何かを学んで習得し、進み続けること。

アブラハムも、ご覧の通り、また歩き出しました。

移動して、25 年前に行っているべき道を進み、約束の地へと向かっています。いざ、出発。

創世記 12 章

6 アブラムはその地を通して、シェケムの場所、モレの榿の木のところまで行った。

当時、その地にはカナン人がいた。

シェケムとは、ヨハネの福音書に出て来るスカルのこと。

井戸の所でイエスが女と話しましたね。

そしてカナン人。呪われ、罪に定められた人々。

想像を絶するほどに世俗的で、罪にまみれ、墮落した人々。

「アブラムよ、わたしはあなたに、あの地を渡す」「あなたにあの地を与える」と神は言われました。

なので、カナン人は絶滅されます。

彼らは非常に邪悪で墮落した罪深い人々で、その悲惨な状態から解放され、これ以上罪が国中に蔓延するのを防ぐためには、滅ぼされなければなりません。

これは、神の憐れみと愛によるものです。

ともかく、**当時、その地にはカナン人がいた。(創世記 12:6)**

7 主はアブラムに現れて言われた。「わたしは、あなたの子孫にこの地を与える。」

ここ、チェックしておいて下さい。

なぜなら、皆さんもよく耳にする「この土地は誰のものか」という議論。

つまり、西岸地区、ガザ、ゴラン高原、イスラエル、さらにもっと。

それらが誰の土地かで争っていますが、神は言われます。

「そこは、わたしのものだ。そして、わたしはそれをアブラム、あなたに与える。」

「この地を、あなたとあなたの子孫に与える。」

どの子孫か。

後に主は言われました。

「わたしはこの地をアブラハム、イサク、ヤコブに与える。」(出エジプト記 32:13)

すなわち、ユダヤ民族に、です。

皆さん、聖書を読むなら、全ての地政学的な問題はいたってシンプルですよ。

「わたしは、あの地をユダヤ人に与える。」と神が言ったのです。

あの地が誰のものかということは、とてもシンプルで、最終的にそうなります。

それで、アブラムは何をしたのでしょうか。

7 アブラムは、自分に現れてくださった主のために、そこに祭壇を築いた。

8 彼は、そこからベテルの東にある山の方に移動して、天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。

彼は、そこに主のための祭壇を築き、主の御名を呼び求めた。

9 アブラムはなおも進んで、ネゲブの方へと旅を続けた。

彼は約束の地にいます。そこで彼がしたことは？

我々が月に行った時、何をしましたか？

アメリカ人が月に着陸した時、国旗を立てましたね。

無事に着陸したことを示す記念の国旗を、しるしとして残しました。

アブラムも、約束の地に入って、しるしを残したのです。

よく聞いて下さい。

アブラハム、アブラムはどこに行っても、何度も何度も二つのことを行いました。

礼拝者であることを示す祭壇を築くことと、寄留者であることを表す天幕を張ること。

彼は決して家を建てませんでした。

その理由は**ヘブル書 11 章**にあります。

8 信仰によって、アブラハムは相続財産として受け取るべき地に出て行くようにと召しを受けたときに、それに従い、どこに行くのかを知らずに出て行きました。

その気持ちが分かりますか？

どこに行くのかを知らずに、「主よ、分かりました。」と言って出て行ったのです。

そして

9 信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束をとともに受け継ぐイサクやヤコブと天幕生活をしました。

10 堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都の設計者、また建設者は神です。

アブラムは天幕に住みました。

彼は既に、温泉や豪邸や高級車レクサスは経験済み、高級時計ローレックスやその他の物も持っていました。

50 年間、そのように生きてきて、そして「ここは居場所じゃない。」と気づいたのです。50 歳で。

彼は、「堅い基礎の上に建てられた都を待ち望もう。」(ヘブル書 11:10) と言いました。

「カルデア人のウルのような所ではなく、心から待ち望むのは天国だ。

私は、ここでは他国人で寄留者だ。だから、ここでは天幕に住むんだ。」

私たちも、こう生きるべきです。

「つまり、家を売ってテントに住めと？」

そういうことではなくて、信仰の父、神の友とも呼ばれたアブラムが、私たちに本当の生き方を教えてくれているということ。

どこへ行っても神を礼拝する。それが人生を変えます。

あなたが礼拝の祭壇を築くと、あなたの人格、感情、考え方が変わる。

すなわち、あなた自身が変わられるのです。

だから、どこへ行っても、天幕思考を持ちましょう。

堅い基礎の上に建てられた都を求めること。

豪邸に住んでいたとしても、それは構いません。ただ、そこに重点を置いてはいけません。

恐らく私たちは思うでしょう。

「田舎に家」「湖の上の家」「最新バージョン」「ビジネスの拡大」「ドリームハウス」「ドリームカー」

「ドリームボート」「彼氏」「彼女」が本当に欲しい。

でも、何であれ、私たちが心から求めているものは天国、堅い基礎の上に建てられた都です。

それは他にはありません。

他のものは、不安定で、グラグラとした蜃気楼。

もし「一部屋増築したら、すぐに幸せになれる」と思っているなら、あなたは惑わされていて、自分を潰しています。

「昇給したら、即刻幸せになれる」と思っている人、自分を潰しています。

「この離婚が成立すれば、あっという間に幸せになれる。そしたら、彼と/彼女と一緒にになれるんだ。」

とか何とか。

あなたも私も騙されています。

私たちが心から求めているのは『天国』だから。

アブラムは言ったのです。

「私も 50 歳だ。私が心から求めている、神が設計し建設した都をハッキリと見つけ出したい。

だから、この世のものには全く重きを置かない。天幕に住もう。」

いずれにせよ、大きな家に住んでいるのは良いことです。

でも、そこに重点を置いてはいけません。

小さな家なら、その事でもっと自由になれるはずです。

家がない人、あなたには良い仲間がいます。

一番大切なことは、天国のために生きること。

そうすれば、はるかに多くのことがそんなに深刻ではなくなり、人生を真の意味で楽しむことができる。

だけど、この世の生き方を重視するなら失望し、惑わされるでしょう。

そこで、アブラムがしたことが、私たちの手本となります。

彼はどこに行っても祭壇を築き、天幕に住みました。

彼は礼拝者で、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望む他国人、寄留者でした。

もう一つ、この箇所に関心を引いたのは、

8 彼は、そこからベテルの東にある山の方に移動して、天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。

ベテルという名の意味は“House of God (神の家)”

アイの意味は“Heap (山)”。Heap の意味はゴミ。文字通り、ゴミの山。

前方に“神の家”、反対側には“ゴミの山”がある、そこが、基本的に私たちが住んでいる場所です。

私たちは父の家に向かっています。

わたしの父の家には住む所がたくさんあります。(ヨハネ 14:2)

私たちは向かっている先を知っていて、この世のゴミから離れていきます。

この世がどういうものか知っていますよね。

今は、この中間地点のような所において、前には天国があり、背後にはゴミがある。

その所でアブラムがしたように、私たちもそこに天幕を張るのです。

最高の場所、天国を待ち望んで。天国、天国！天国！！

9 アブラムはなおも進んで、ネゲブの方へと旅を続けた。

しかし、ここ、見て下さい。

ああ…残念なことに…アブラムは進み出しましたが、またもや揺らぎます。全くもって…

10 その地に飢饉が起こったので、アブラムは、エジプトにしばらく滞在するために下って行った。

聖書がエジプトと言う時は必ず、今、皆さんが見たこのフレーズ、“エジプトに下って行く”

聖書では必ず、“エルサレムに上って行き、エジプトに下って行く。”

エジプトは世の型で、世のシンボルだから。

アブラムは、しばらくの間は上手くやっていたのに、ここにきて、またもや揺らいでしまった。

10 その地の飢饉が激しかったからである。

だから、「何とかしなければ！」「食べるものがない!!」

神は言われました。**わたしが示す地へ行きなさい。(創世記 12:1)**

アブラムはそこへ行きましたが、じっとしていませんでした。「何とかしなければ！」

いいですか。

「何とかしなければ！」と思う時は、必ず危険が伴います。

なぜなら、私たちは殆どの場合、多くの場合、首を切り落とされたニワトリのように走り回っているから。

つまり、頭であるイエス・キリストから切り離された状態になっているのです。

ここではアブラムも走っていて、食べ物を得るためエジプトに下って行きました。

11 彼がエジプトに近づいて、その地に入って行こうとしたとき、妻のサライに言った。

「聞いてほしい。私には、あなたが見目麗しい女だということがよく分かっている。

この時、サライはまだ若くて 65 歳くらい。

それでアブラムは言うのです。「あなたは、本当に美しく魅力的だ。」

12 エジプト人があなたを見るようになると、『この女は彼の妻だ』と言って、私を殺し、あなたを生かしておくだろう。

「彼らは、あなたを手に入れるために私を殺すだろう。サライ、あなたは実に美しいから。」

そうして更に、

13 私の妹だと言ってほしい。

そうすれば、あなたのゆえに事がうまく運び、あなたのおかげでわたしは生き延びられるだろう。」

「ただ、私の妹だと言ってくれ。そうすれば、私は死ななくてすむだろう。」

アブラムは信仰の人ですよ。

でも、信仰の部分でぐらっている。

誰でも自分の強みである分野でつまずき、葛藤するのです。

ペテロは勇敢で、ゲッセマネでは剣を抜いて、全部隊を相手にイエスを守ろうとしました。

ところが、たき火の周りで、女の人が言った言葉に揺らいでしまいます。

「あなたも、ナザレ人イエスと一緒にいましたね。」(マルコ 14:67)

ペテロは「私は知らない。」モゴモゴと口ごもりながら…

モーセは最も謙遜な人物でした。彼自身が書いています。

モーセという人は、地の上のだれにもまさって柔和であった。(民数記 12:3)

それでも、彼は何をしましたか？ モーセが失敗した時、何がありましたか？

「逆らう者たちよ。さあ、聞け。

この岩から、われわれがあなたがたのために水を出さなければならないのか。」(民数記 20:10)

モーセは手を上げ、彼の杖で岩を二度打った。(民数記 20:11)

完全に謙遜さを失ってしまいました。

ノアは正しい人でした。(創世記 6:9)

だけど、何がありましたか？

彼はぶどう酒を飲んで酔い、自分の天幕の中で裸になった。(創世記 9:21)

最も強い部分が、最もつまずき易い部分でもあるのです。

なぜかという、普段、自分の力に頼っているから。

「ここは任せておけ！そんなこと、絶対にしないから。」と思うなら要注意！

「私は、そこでは絶対につまずかない。」気をつけて！

大抵、そこが失敗を経験する部分だから。自分の能力に頼っているから。

自分でも弱いと分かっている部分では神に頼るのです。

ここでは、信仰の人アブラムが妻に「私の妹だと言っておくれ。」

これは部分的には事実で、系図を見れば分かりますが、アブラムとサライ（サラ）は異母兄妹（創世記 20:12）

しかし、半分事実ということは完全なウソということ。

これをよく理解して書き留めて下さい。

「偽りの証言をしてはならない。」(出エジプト記 20:16)

偽りの証言について、マタイ 26 章に説明があります。

イエスの審判で、二人の偽の証人が登場して言いました。

「この人は、『わたしは神の神殿を壊して、それを三日で建て直すことができる』と言いました。」

(マタイ 26:61)

確かに、イエスはそう言いました。

では、なぜ彼らが偽の証言をしたことになるのか。

確かにイエスはその言葉を言いましたが、彼らは“正確な情報”を“間違った意味”で使っています。

二人は「この人は、『わたしは神の神殿を壊す』と言いました！」と証言しましたが、イエスが言っていた神殿とはイエスの体のこと。

聖書が言う偽りの証言とは、“大ぼら”という意味ではなく、狡猾に、半分は事実とか、75%は事実とか、情報は正しくても意味合いが違うことをそのまま引用すること。

これは非常に狡猾です。

サライが妹だということは、ある意味事実。でも完全な事実ではない。

完全な事実、彼女はアブラムの妻だということ。

だから誰でも、ずる賢く、巧みに言葉を練る人には要注意。

もし、あなたが器用に言い逃れをしているのなら悔い改めなさい。

偽りの証人が言うことは、ある意味では事実であったり、そのまま引用したりしながら、意味が違う。

神はシナイ山で十戒を与えました。

「あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない。」(出エジプト記 20:16)

その偽りの証言が、イエスの審判の時にもあったのです。

「あなたは私の妹だ。」は、ある意味本当だと思いますよ。

しかし、違う意味で伝える。大変危険なことです。

果たして、全てのことが起こりました。

14 アブラムがエジプトにやって来たとき、エジプト人はサライを見て、非常に美しいと思った。

聖書に“非常に美しかった”と書いてある時は、その人は本当に美しいのです。

15 ファラオの高官たちが彼女を見て、ファラオに彼女を薦めたので、サライはファラオの宮廷に召し入れられた。

16 アブラムにとって、物事は彼女のゆえにうまく運んだ。それで彼は、羊の群れ、牛の群れ、ろば、それに男奴隷と女奴隷、雌ろば、らくだを所有するようになった。

ファラオは「そうか。彼女はあなたの妹なのか！ これらのものを持って行きなさい。」と言って、アブラムに男女の奴隷や牛の群れ、らくだなどを与えました。

当時、これらは高価で、ローレックスのようなものとも言いましょうか、贅沢なものでした。

「これらを受け取りなさい！ 私はあなたの妹を頂こう。」

こうして、アブラムは全てのものを受け取りました。

17 しかし、主はアブラムの妻サライのことで、ファラオとその宮廷を大きなわざわいで打たれた。

その夜、きっと、ファラオはその気になっていたでしょう。

間違いなく、ファラオはサライと過ごそうと思っていたでしょう。

でも、突然気持ち悪くなって、フラフラで、全くそんな気になれなくて、具合が悪くベッドに横たわった。

しかもファラオだけでなく、周りの人間全員も災いのために病気になってしまった。

だから、ファラオがしようとしていた事はできなくなり、彼はその理由を悟ります。

18 そこで、ファラオはアブラムを呼び寄せて言った。

「あなたは私に何ということをしたのか。彼女があなたの妻であることを、なぜ私に告げなかったのか。」

19 なぜ、『私の妹です』と言ったのか。だから、私は彼女を自分の妻として召し入れたのだ。

さあ今、あなたの妻を連れて、立ち去るがよい。」

20 ファラオがアブラムについて家来に命じたので、彼らは彼を、妻と、所有するすべてのものと一緒に送り出した。

よく聞いて、覚えておいて下さい。

アブラムの妻サライは、クリスチャンである妻のあるべき姿として、聖書が挙げている女性です。

アブラムはここで失敗しました。

彼は、妻を正しい方向に連れて行かずにエジプトに下り、その上、恐れをなして、彼女を危険な立場に立たせ、結果、サライはファラオの宮廷に召し入れられてしまったのです。

でも、聖書が告げていることをよく見て下さい。

I ペテロ 3 章。ここを知らない人は、書き留めて是非読んで下さい。

1 妻たちよ、自分の夫に従いなさい。

たとえ、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって神のものとされるためです。

ペテロは、夫に従い、神を求め、神に仕える美しい女性の内面について語っているのです。

そして、こう続けています。

5 かつて、神に望みを置いた敬虔な女の人たちも、そのように自分を飾って、夫に従ったのです。

ペテロは言います。「妻たちよ、夫に従いなさい。」これがカギです。」

4 それこそ、神の御前で価値あるものです。

6 たとえば、サラはアブラムを主と呼んで従いました。

どんなことをも恐れなくて善を行うなら、あなたがたはサラの子です。

簡単に言えば、サラは夫アブラムを主と呼んで尊敬し、彼に従いました。

「でも、彼はサラを滅びの道に連れて行きましたよ！」

いいですか。しっかり聞いて下さい。

I ペテロ 3 章の話の中で主が伝えていることは、サラはあるべき姿の手本だということです。

すなわち、夫に従うことは、結局は主に信頼することになるのです。

創世記 12 章のこの話の中で、主がされたことを見て下さい。

その時、夫は賢い道を歩んではいみませんでした。サラは夫を主と呼んで、従うことで尊敬しました。

そうして、神はまず第一に、サラを守ったのです。

姉妹たち、女性の方たち、たとえ、夫がベストな道を歩んでいなかったとしても、あなたが夫に従うなら、あの日サラを守ったように、主はあなたのことも守って下さる。

主があなたを守ります。

だからと言って、「踏みつけられても、じっと耐えていなさい」と言っているのではありません。

「何も考えず、黙って言いなりになれ」と言っているのでもありません。

何かの決断をしなければならない時に、あなたと夫の意見が違った場合、あなたにはそれが最善だと思えなくても、妻は夫に従わなければならないということです。

なぜなら、それは、あなたが主のために献げる犠牲となるから。

犠牲は、それが犠牲にならないと犠牲ではない。

夫と意見が同じ時、それは従順でも何でもありません。

夫に賛成できない時に、従順さが問われる。

あなたが何かを手放す時に、犠牲が献げられるのです。

「これがベストだとは思えない、これが最善には見えない。

でも、主よ、あなたがそうしなさいと言うなら、これが結婚生活のあるべき姿だと言うなら、私は従います。」

神はサライを守りました。

次に、神は家族を繁栄させました。

サライが従順な妻だったから、神は家族を繁栄させたのです。

ここで起きたことを見て下さい。

彼らは牛や羊やロバや奴隷、らくだを得て、また裕福になっています。

ファラオが「さあ、これらを与えよう。」と言い、次に「ここから出て行け。」と言った時、**所有するすべてのものと一緒に送り出した。(創世記 12:20)**

与えられて所有している全てのもの。

家族が豊かになって欲しいですか。

愛する妻の皆さん、姉妹たち、家族を豊かにして欲しいなら、あなたがすべきことは夫に従順になること。

神はあなたの想像をはるかに超えて、家族を祝福して下さいます。

それでも、言いたいでしょう。

「ものすごく、身びいきに聞こえるわ。」「アブラハムばかり、得してるじゃない！」

「自分の身を守るために妻を危険な目に遭わせといて、自分は全財産を持って出て行った？ 信じられない!!」

もうちょっと待って下さい。話はここで終わらないから。

アブラムも、無傷で逃げられるわけではありませんよ。

この与えられたものの中のあるもの、女奴隷、その中の一人、ハガル。

彼女が、後々、アブラムの心をいつまでも痛めることになります。

後に、アブラムがサラのアドバイスを聞き入れて、関係を持つのがハガルです。

サラは不妊の女でした。

「どうぞ、私の女奴隷ハガルのところにお入りください。」

おそらく、彼女によって、私は子を得られるでしょう。(創世記 16:2)

そしてご存知の通り、ハガルはイシュマエルを産みます。

イシュマエルはアブラハムの長子として生まれますが、時が経ち、彼が大きくなるとサラは言いました。

「この女奴隷とその子を追い出して下さい。」(創世記 21:10)

神は、**「サラがあなたに言うことはみな、言うとおりに聞き入れなさい。」(創世記 21:12)**

「彼らを追い出しなさい。」

アブラハムは泣き叫びます。心引き裂かれて、「ああ！ 神よ!!!」

長男が荒野へ放り出されたのですから。

アブラハムの心は張り裂け、彼は一生涯、その痛みを背負って生きました。

妻の皆さん、希望を持って！

夫が間違った方向に向かっているながらも、あなたが夫に従うなら、神はあなたを守り、家族を繁栄させて下さいます。

そして、間違いを犯した夫には、ちゃんと痛みが与えられるのです。

自分たちの身に降りかかる罪の罰を思い知ることになる。(民数記 32:23)

全くもって真実です。

罪を犯す者よ、**思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。**

人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。(ガラテヤ 6:7)

ね、女性たち、ここを覚えていて下さい。

「男ばかり最前されて。」と言うのは違います。

もし、私が家族を間違った方向に導いたなら、私の心が引き裂かれ、張り裂ける結果になるのは確実です。

でも、私が間違った方向に向かっている時でも、妻が私に従うことを選んだなら、その時は神が彼女を守り、別の形で私たちの家族を繁栄させ、それでいて、私はまだ、自分の罪が生み出した痛みを苦しむのです。神は私に対応されます。

もし、あなたが妻として夫に従順でないなら、従っていないなら、「それはできない。」と思っているなら、ミニストリーや何かに関わろうと考えてはなりません。

女性のためのバイブルスタディーや祈禱会を持つなどと考えてはいけません。

伝道師になろうなんて思っただけはいけません。

そこに行こうなんて考えてもいけません。

全ては家庭から始まるのだから。

女性たち、家庭で上手くいかないのなら、他も上手くいきません。

男性たち、家庭で上手くいかないのなら、他のことは上手くいきません。

これに関して、神はとても深刻に受け止めています。

自分の子供すら神の道に育てられないのに、ミニストリーのリーダーとして、どうして神の子供たちをミニストリーの中で弟子訓練し、奉仕し、教え、育てられるのでしょうか。

神は使徒パウロを通して言われました。(I テモテ 3 章)

「兄弟の中で、長老や監督になる者は、自分の家庭をよく治めている者でなければならない。

それが出来ていない者は、ミニストリーにふさわしくない。」

「女が夫に従っていないなら、たとえ夫に同意できなくても従わないなら、彼女は他のどんなミニストリーにも関わる資格はない。」

家庭で機能していないなら、どこに行っても同じ。それだけのことです。

このことを、神はどんなに深刻に受け止めておられるか。

モーセの場合。

神は、その民をエジプトから救い出し、約束の地に導くためにモーセを召されました。

しかし、その道中で、**主はモーセに会い、彼を殺そうとされた。(出エジプト記 4:24)**

神は、モーセが大きな働きをするように召されましたが、モーセは自分の息子、自分の家族に、すべきことをしていなかったのです。

何年も前に、息子に割礼をしなければならなかったのに、我が子がないがしろにしていた。

それで神は、子供をないがしろにすることを非常に深刻に受け止め、「自分自身の家族もきちんと見れないのなら、あなたの働きは意味がない。だからモーセ、あなたはここで死ぬのだ。」

チッポラはそれを理解していて、火打石を取り、モーセがすべきことを彼女が行いました。

ところで、妻の皆さん、この話にもあるように、あなたの夫が主を家庭に持ち込もうとしないなら、家族のデボーションや祈りの時間、何であれ、もしも夫がやりたがらないなら、あなたには火打石を、剣（聖書）を握る権利があります。

本来はそうあるべきではありませんが、実際にはよくあることで、神はそのことをとても深刻に見ておられる。モーセに、パウロに、テモテに、そしてアブラムに聞いてみて下さい。

子供に関して、夫婦の関係に関して、まずは、家庭を正しく治めること。

夫のことを「老いぼれ」とか「あんなおバカには従わないわ。」「いつも間違っただけばかり。」

「何も分かつちやいない。」「頭痛の種よ。」「絶対に従わない！」と言っているあなた。

もし、頭痛の種だから従わないと思っているなら、あなたは大事なことを理解できていません。

だから、ミニストリーの中で、あなたにできることは何もない。

頭痛薬を飲んで、すべきことをしなさい。

